

私は、長野大学生として卒業の日を迎えられたことを誇りに思います。

大学生生活を振り返ると、笑顔や明るさ、積極性を褒めていただく機会が多かったように思います。しかし、この4年間のかげがえのない出逢いや経験がなければ、今の私はいなかったと思います。

オープンキャンパススタッフをはじめ、学内外の活動に積極的に参加したことで人脈が広がった1年生。友人とのかかわり方に悩んだ時期でもありましたが、自分次第でできることが広がるのだと学びました。2年生になり、ボランティア活動や基礎実習により、自分自身を見つめ直す機会が多くなりました。自身を知る過程で、「環境のおかげでできていたこと」の多さに気が付きました。挑戦する機会や友人、家族をはじめ、応援してくれる人の存在、のびのび活動させてくださる先生方。自分を取り囲む環境の有難みを感じました。3、4年生は、それまで以上に充実していました。特に大学祭実行委員会と災害ボランティア、実習では何度も悩み、考え、挑戦を繰り返しました。知った気にならないこと、自分一人で全てできることが良いとは限らない、周りの力を上手く借りること、環境を整えることが大切ということ、これらは私の大きな学びであるとともに、今後の課題でもあります。

私が積極的に活動しようと思ったきっかけは、「ボランティアは、学費ゼロ円の最高の学び」という、端田先生の言葉でした。それまでは、大勢の中で手を挙げることにすら抵抗がありましたが、その言葉によって、私は自信を持って挑戦し続けることができたのだと思います。先生にはその後も、ゼミ活動などさまざまな場面でお世話になりました。昨年、端田先生の訃報が、多くの方々へと伝わり始めたころ、端田ゼミは混乱の中、ただ感情と感情をぶつけ合うことしかできませんでした。私も、自分の気持ちや、ゼミ生、周りの人と、どう向き合えば良いか悩み、大学生活で一番辛い時期でした。しかし、私たちゼミ生が再出発できたのは、先生のご家族をはじめ、多くの方々に支えられたおかげだと思っています。端田先生が構築された人と人との「つながり」に、何度も助けられました。

この4年間によって、自分は決して独りではないと実感させてもらったとともに、人と支え合うことの大切さを知りました。周りに支えられ、時に立ち止まりながら、全力で駆け抜けた大学生活でした。おかげさまで私自身、「今の私」が一番お気に入りです。

長野大学を通じた「つながり」は、私の財産です。私たちを支え続けてくださった方々へ、心より、感謝申し上げます。様々な出逢いと、思い出たくさんな4年間、本当にありがとうございました。

私は、2017年の春、公立大学一期生として長野大学に入学しました。私は、将来的に教師になることが選択肢の一つにありました。また、多様な友達とのかかわりや自分自身の社会への不適應の経験から、特別支援教育にも興味がありました。そのため、この二つの分野を学ぶことができる長野大学への入学を決めました。

しかし、大学生活前半、私の学生生活は惨憺たるものでした。大学に入学してすぐ、父親が山で命を落としました。それから一か月もたたないうちに祖父が亡くなり、同じ時期に友人関係のトラブルで智を失い、私は深い絶望と無力感を感じました。この頃は、将来への希望や努力の意義を見出せず、今さえよければそれでよいと考えていました。大学の授業にはろくに出ず、バイクやアルバイトに奔走していました。こんな学生生活にはすぐに限界が来ます。私は、現状を見かねた先生から、教職課程をやめるように言われました。その先生からは、「甘い気持ちを持った人間に子どもの教育を任せられない。」という強いメッセージを感じました。私は、このままではいけないと焦り、変わることを決心しました。今までの自分を変えることは、生易しいものではありませんでした。先生からの信頼を取り戻せずに悔しい思いをすることもありました。その度に学友たちから支えられ、教職課程を続けることができました。

四年になると、教員採用試験があります。私は、自分を支えてくれた人への恩返しの意味も込めて、猛勉強を始めました。怠惰な心に流されそうになる時もありましたが、親友と励まし合い、共に戦いました。そして、一次試験を突破し、その後は先生方から何度も面接練習をして頂き、二次試験に挑んだ結果、採用を勝ち取ることができました。

この結果は、自分を支えてくれた友達、私が変わることを信じて注意してくれた先生方、精神的にも金銭的にも支えてくれた母、自分に関わる全ての皆様のお蔭で果たせたものです。私は、決して一人ではなく、様々な人に支えられて生きてきました。

私は、春から教員になります。教育実習をさせていただいた上田第二中学校では、教師職の責任の重さを学ばせていただきました。その学びを胸に、強く、やさしい教員を目指したく思います。

最後に、長野大学への感謝と将来の益々のご発展をご祈念申し上げ卒業生代表のことばとさせていただきます。

厳しい冬の寒さもいつの間にか和らぎ、吹く風に春の訪れを感じられるようになりました。

本日の卒業の日を迎えるにあたり、中村学長をはじめ、教職員の皆様方並びに保護者の皆様方に卒業生一同心よりお礼申し上げます。

入学当初は新生活に慣れずに戸惑うこともありましたが、諸先生方や職員の皆様のご指導、サポートのおかげで学問だけでなく様々なことを経験し、一人の人間としても成長できたと実感しております。

公立大学一期生として、地域協働を掲げる長野大学で多くの方々と関わりあって過ごした大学生活は、私達にとってかけがえのない時間で、瞬く間に過ぎ去っていきました。

『発見・発信』この言葉は私が大学在学中に大切にしてきた言葉です。地域や社会には様々な問題や課題、魅力があります。それらを発見し、解決や活用に向けた発信を仲間と共に行ってきました。上田市柳町等におけるゼミ活動では『地域交通と観光』の現状調査を行い、上田市都市景観フォーラムで発表する事により、道路の一方通行化や試験的な歩行者天国化等、課題解決に向けた具体的な取り組みが行われ始めました。その他にも上田市における日本遺産活用の取組課題や立科町における魅力、「音のない世界」の魅力(手話サークル)、「地域社会で活動することの楽しさや学び」(学生有志団体)を発信してきました。それらすべてにおいて、地域社会と密接に関わることにより、成果を残していく事が出来ました。地域連携活動を通して、多くのことを経験し、様々な視点に触れたことで自身の意識やスキルの向上に繋がり、充実した学生生活を送ることが出来ました。

これらの活動を成功に導くことができたのは、私一人の力ではなく、素晴らしい先輩や後輩、同期の仲間、親身になって寄り添ってくださった教授や地域の方々にお力添えいただくことができたからです。私はこの様な環境で大学生活を送れたことをとても誇りに思っております。

本日をもって、私達長野大学卒業生は、就職、進学など別々の道へ進みます。今後は、社会の一員として、大学生活で培ってきた経験を糧とし、日本だけでなくグローバルな面からも、より一層社会に貢献できるよう、驕ることなく謙虚な姿勢で精進して参ります。

最後になりましたが、これまで私達を支えてくださった先生方や地域の方々、大学生活を様々な面から支えてくれた両親、共に励まし合い、切磋琢磨してきた友人たちに御礼申し上げます。そして、長野大学のこれからの更なる発展と、皆様のご健勝を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

大学生活に夢と希望を抱いて入学した大学1年生の4月。

それから約半年後、学業においてやりたいことが明確に決まっていなかったこともあり、当時の私は「大学がつまらない・楽しくない・嫌い」と感じていました。語学選択の抽選から漏れ、中国語を選択せざるを得なかったことも要因の一つです。

熱中できるものを見つけたい、何かをやり遂げ自分を大きく成長させなければ後悔する……。その頃、国際キャリア中国語特別コースに入っていた事もあり大学2年生後期から1年間の北京留学に挑戦することに決めました。留学すれば自然と語学力は身につくだろう、そう安易に考え挑んだ留学でしたが、やはり初めはうまくいきませんでした。

私が在学した北京連合大学の言語班では下から順に1級～5級まであり、私は3級（中級）にクラス分けされました。当然のことながら周りの同級生は中国語で会話でき、簡単に意思疎通を図ることができていました。読解・リスニングの点数のみ高く、それ以外は他国の学生に劣ることから、日本人は会話ができないという弱点を留学中何度も指摘されました。それからその概念を覆そう、周りの人に追いつこうと必死に勉強するとともに、太極拳や学習旅行等学外活動へ積極的に参加することで少しでも語学力を伸ばそうと努力しました。その結果、留学終盤には中国語で意思疎通が図れるようになり、面白いと感じなかった中国語が気づいたら楽しいと思えるまでになっていました。

留学を通して語学を学びコミュニケーションをとることの魅力に気づくことができただけでなく、どんなに不利な状況でも努力し続ける姿勢を保つことや物事を広い視野を持って考え、発信することの大切さを学びました。今では中国語に出会わせてくれた語学選択の抽選にも感謝しています。この留学で培った学びや経験、そして努力と出会いは私の一生の誇りであり財産です。学問領域が広く、自分の学びたい学問をとことん学ぶ環境がある環境ツーリズム学部に所属していたからこそ、今日まで私はこんなにも自由奔放な学生生活を送ることができました。

しかし本日で私たちは長野大学を卒業し、それぞれの新天地で新たな一步を踏み出すこととなります。環境や状況は変わりますが、社会人になっても長野大学で培った学びや経験、失敗を糧にして、一步ずつ、自分らしく、そして私だけのペースで前向きに歩んでいきたいです。

最後になりましたが、4年間の学生生活を温かく見守り指導して下さった諸先生方、辛い時も楽しいときもそばにいてくれた学友、そして、経済的・精神的など多方面で支えてくれた家族に心から深く感謝いたします。

大学生活の中で、私には揺らぐことのない決意がありました。それは、この大学生活の4年間の中で必ず、自分のやりたいことを見つけ、一生懸命学び、自分のものにして、将来のために役立てるということです。

情報分野に興味を持ち、学んでみたいという想いでこの長野大学に入学しました。入学当時、私には同学部にも他学部にも知り合いがおらず、仲良くなれる人がいるのか心配でした。しかし、私と仲良くしてくれる友人たちがすぐにでき、安心を抱きながら大学生活をスタートすることができました。

1年次、私はこの大学生活で情報分野に関心を持ち、3DCG技術に出会いました。PC上で立体物を制作し、3Dプリンターで出力したり、自分の制作した作品が他の人の目に触れられたりすることに、楽しさややりがい、もっといろいろなものを制作してみたいという意欲が湧きました。そして、2年次からのプロジェクト研究でも、この技術を使った研究をしてみたいと思い、情報分野であるゼミナールへの所属を決めました。ゼミ内には3DCG技術やプログラミングなどを使用した様々なプロジェクトがありました。その中でも私は映像や写真からではなく古文書などの史料からかつて存在していた城や城下町を3DCGで復元させる「小諸城3DCG復元プロジェクト」に心を惹かれ、このプロジェクトへの参加を決めました。

はじめの頃は、先輩方の技術力に圧倒されたり、同級生のセンスの良さや理解力のスピードなどに劣等感を抱いたりする日々でした。自分の制作スピードの遅れに悔しさを感じた私は、ゼミ以外の時間や長期休みを使用し、制作物を進めたり、技術力を磨いたりすることに励みました。学年が上がるにつれ、後輩たちが増え、気がつくと思わぬ立場から教える立場になっていました。そして、4年生になり、私はこのプロジェクトのリーダーになりました。協力することや意見をまとめることなどが多く、時間があれば研究に時間を注ぐ日々でした。大きなプロジェクトということもあり、とてもやりがいがありました。頼れる後輩たちに託したプロジェクトがさらに発展を続けていってほしいです。

私は4月からSEとしてIT業界で働きます。新たに学ぶことが多いと思います。少し緊張はしておりますが、ゼミで経験したように、高い技術力を身につけて頑張っていきたいと思っています。

最後に、長野大学の教職員の皆様、私と関わってくださった方々に感謝いたします。ありがとうございました。

この度は私たちのためにこのような盛大な卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。僣越ながら、これまでの学生生活を振り返り、感謝の気持ちを述べたいと思います。

自身の学生生活を振り返ると、ゼミナールでの活動が思い出に色濃く残っています。私は入学してから、先生のご指導のもと、そして、仲間たちと「顧客が今までに味わったことのない商品・サービス」という大きな問いに向き合い続けました。その問いは相手の立場になって暮らしの豊かさを考えるものであり、とても多くの学びがありました。しかし、同時に、長く、険しいものでもありました。私はグループリーダーを務めていたため、自分の未熟さに悩んだことも少なくありません。

しかし、そのようなとき、いつも先生や仲間が助けてくれました。自分では考えつかなかったアイデアに驚くことも多く、それぞれの考え方の重要性に気づかされました。最終的にみんなが納得できるものに仕上がったときは大きな達成感と喜びを感じることができ、また、みんなに支えられているという気持ちも強くなりました。ゼミナールでの活動を通じて、人の意見を大切にすること、意見が言いやすい場をつくること、さまざまな意見を尊重することなど、多方面で生かせる力が身につきました。そのことは集団でのコミュニケーションにとっても役立ち、就職活動のグループワークにもつながりました。志望していた企業に就職できるのはそのおかげだと思っています。

これからの社会人生活においても以上のような貴重な経験を大事にし、多くのことを学んでいくつもりです。時には周りから刺激を受けながら、お客様が感動するものを提供したいと考えています。それが地域の暮らしを豊かにすると信じています。ご指導くださった森教授、また、ともに学んだ仲間に関心から感謝を申し上げます。4年間本当にありがとうございました。

最後に、昨今の大変な状況のなか、私たち4年生のために卒業式の挙行を決断してください、ありがとうございました。長野大学における学びの締め括りとして、また、人生の大きな節目として、今回の卒業式には大きな意味があると思います。学長をはじめとする先生方、学生生活を支えてくれた職員の皆様、また、ともに学んだ在校生の皆さん、そして、家族に関心から感謝しています。ありがとうございました。